

# 令和4年度第6回小規模多機能型居宅介護事業所

## 「紙ふうせん」運営推進会議議事録

日 時：令和5年2月9日（木）10：30～12：00

場 所：野栄福祉センター 1階和室

出席者：大木公正 伊藤良一 大木健守 伊野喜代司 及川大樹 太田奈津栄

社協	渡辺副会長	局長
紙ふうせん	佐藤	

●開会のことば 渡辺副会長

●委員長あいさつ

●議題

(1) 令和4年度12月・1月運営状況及び利用実績の報告について

委員長：以上報告がありました。何か質問はあるか。

大木健：運営状況の廃止理由に「その他」とあるがどのような理由か。

佐 藤：入院していたが退院後は福祉用具以外のサービスは利用しないことになり他事業所のケアマネに移行した。

伊 藤：1月は営業日数が少ないためか利用回数が減っている。

佐 藤：通いの数は減ったが、体調を崩し施設に來れない利用者がいたため訪問は増えている。

委員長：事業収入を考えると定員一杯まで利用者を増やさないといけないが、今の職員数では24名は負担が大きいのか。

佐 藤：定員一杯にはしたいが、何年も現状が変わらないので職員のモチベーションが低下している。

委員長：職員のモチベーションの低下はサービス低下につながる。

委員長：清藤局長時代、会議で社協の予算が足りないという話に対して、足りないという前に何か新しい事業考える事が先ではないかという意見が出た。もうける必要は無いが利用者にとどのような満足感を還元できるかという事を考えなくてはならない。現状では20名から22名位なら負担なく受け入れられるのか。

佐 藤：24名でも受け入れは可能だが利用者の状態にもよる。認知症で徘徊等ある方や車いすで身体が動けない方、1人だけ居住地区が離れている方などは手が

とられるので難しいことがある。

委員長：精米所に来るついでに送迎の様子を見るが、玄関の階段を上がる利用者の様子を見て危ないと思うことがある。手すりやスロープを付ける予定はないのか。

佐藤：以前利用者が階段を上ろうとして転倒したので、階段に手すりの設置を要望したが、北側のスロープを利用すればいいとなった。しかしスロープは歩行距離が長くなり、車も着けられないので車いす以外は利用していない。

伊藤：構造が良くない。

委員長：本来なら利用者の事故を防ぐためリスクの無い所を通させるのがベストなはずだ。転倒や何かあった場合は問題にされてしまう。

大木：手すりは付けられないのか。高齢者でも意外と手の力はある。

局長：手すりの設置を検討したが、20~30万かかってしまう。スロープの両側に立派な手すりが付いているのでまず、そちらを利用してはどうかとなった。

委員長：身体の不自由な高齢者が利用するのでリスクを避けた方がいい。

局長：また検討してみる。

局長：前回の推進会議で収支に関する質問が出たので今年度の紙ふうせんの収支について説明すると、資金収支計算書は予算に対して1月末までに執行状況がどれぐらいか、三期実績比較表は今年、昨年、一昨年の1月末までを比較したものとなっている。総括的にどうかというと、令和4年度の介護保険の収入は2か月遅れなので11月末までしか反映されていない。今年度の見込みは前期末の支払資金残高が4,667,484ある。今年度の予算で基金から300万位取り崩さなくてはいけないかと思っていたが、前年の黒字340万があるために終始はトントンになると思っている。基金を取り崩さないということは支払資金残高が減少するので100万位残るのではないか。その要因は事業所活動収入が17,348,048、支出が20,499,390差額が3,151,342となっているが法人の繰り越し金の割り振りや、後から入ってくる収入があるので今期は赤字は出さないが事業収支だけでは黒字にはなっていない。

委員長：経営的にまだまだ危機感を感じることはないのか。

局長：繰り越しの貯金の部分が減少してしまうが、現在はトントンで行けると思うが最近の物価高は厳しいものがある。

委員長：物価が上がったからと言って利用料を上げるわけにはいかないのか。

佐藤：介護保険部分は金額が決まっているので、上げるとしたら食費等の実費の部分しか上げられない。

局長：先ほど言い忘れたが、処遇改善の交付金で人件費が上がったようになっている。これは国から来ているお金で昨年よりは100万近く上がっている。

委員長：コロナのせいで利用者が満足するようなことができないだろうが、今後規制緩和でどこまで利用者が楽しめることができるか。

佐藤：規制緩和されても高齢者の死亡リスクは減らないので慎重になってしまう。

委員長：リスクは避けなければいけないが、気持ちの中でやる気が無くなってしまふ。紙ふうせんを利用して楽しい、良かったという前向きな気持ちがやる気を与える。気持ちが下がってしまったらどんな良い薬を飲んでもダメ。感染リスクの回避は必要だが、そういう高齢者の気持ちも大切にしたい。

## (2) サービス評価

サービス評価総括表の「前回の改善計画に対する取り組み」について意見をもらう。

及川：表現が曖昧でわかりづらい。何月に何をやる等具体的な表現にしてはどうか。

### C. 事業所と地域の関わりについて

太田：紙ふうせん新聞が発行できなかったが、新聞の発行にこだわる必要はない。別な関わり方を考えてはどうか。例えば、チューリップ祭りの後にサツマイモを保育園やシニアクラブに声掛けし植える予定だが、それに参加してみてはどうか。秋には収穫もできて焼き芋などでも楽しめる。

### F. 事業所の防災・災害対策

大木：災害対策の関係で玄関の手すりがあると無いとでは違うと思う。

●閉会のことば 渡辺副会長